

浜松市デジタル・スマートシティ構想【第二期】

«Appendix»



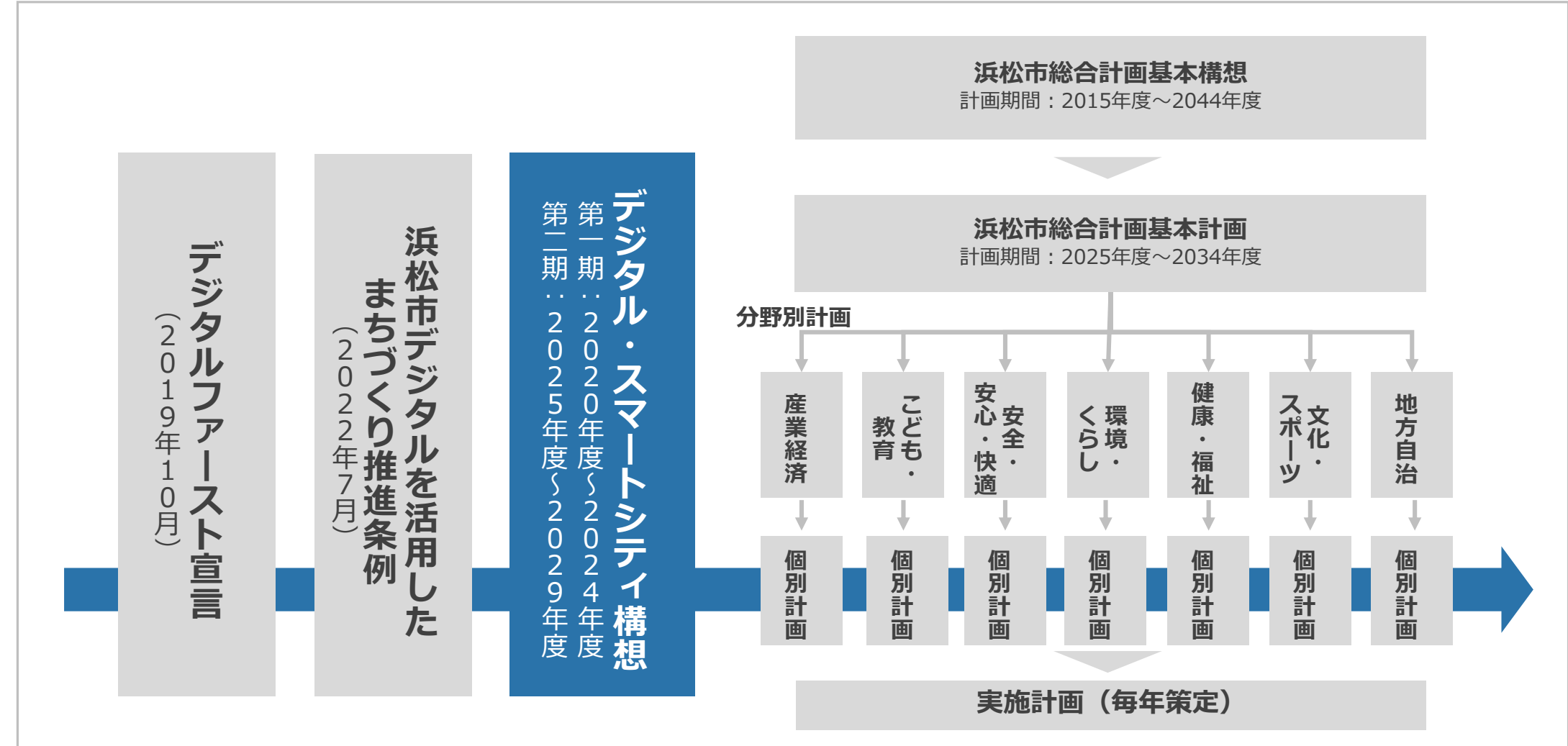
構想（第二期）の趣旨・位置付け

■ 構想策定の趣旨

「浜松市デジタルファースト宣言」に基づき、都市づくりをデジタルファーストで進めるデジタル・スマートシティ政策の指針として策定し、多くの方々と共有し、官民共創で“デジタル・スマートシティ浜松”の実現を目指します。

■ 構想の位置付け

「浜松市デジタル・スマートシティ構想」は、「浜松市デジタルを活用したまちづくり推進条例」に基づく基本指針であるとともに、本市の最上位計画である総合計画に基づく個別計画として、デジタル活用の観点から分野横断的な取組の指針となるものです。



必要な視点・基本原則

■ 必要な視点

1. オープンイノベーション

イノベーションの創出に向け、組織や分野等を超えた共創のまちづくりを推進。

- 市民、NPO団体、企業、大学、行政など多様な主体が自律的に参画し、組織や分野を越えた共創のまちづくりを推進することで、イノベーション（革新的な技術や新たなサービス・仕組み）の創出を目指します。
- オープンであることや相互運用性等を大切にし、創発性の高い環境を構築します。

2. 市民起点／サービスデザイン思考

デジタルは、「Well-Being※¹の向上」、「都市の最適化※²」のための手段と捉え、“市民起点”のまちづくりを推進。

- デジタル化を市民に強いたり、技術やソリューション※³ありきではなく、デジタル活用はあくまでWell-Being向上や地域課題解決の手段と捉え、利用者の目線による“市民起点”のまちづくりを推進します。
- サービスやソリューションの創出にあたっては、利用者目線で考える“サービスデザイン思考”で取り組みます。

3. アジャイル※⁴型まちづくり

スモールスタート※⁵でチャレンジし、トライ＆エラーを繰り返し、変化に強いまちづくりを推進。

- スモールスタートで果敢にチャレンジし、実行・検証・改善を繰り返すことでニーズに合ったサービスやソリューションを創出します。
- 環境変化のスピードが速い時代において、作りこみすぎないことや回遊性の担保などに配慮し、変化に強い、しなやかなまちづくりを推進します。
- 本市の目指す拠点ネットワーク型都市構造の実現にも貢献します。

4. ジェンダード・イノベーション

「性差の視点」を考慮したイノベーションを創出し、誰もが暮らしやすいまちづくりを推進。

- 科学や技術、政策に性差分析を取り込むことにより、新たな視点を見いだしながらイノベーションを創出し、社会実装へ繋げていきます。
- 従来見落とされがちだった利用者の視点を取り入れることで、誰もが暮らしやすい、インクルーシブな都市空間の創出を目指します。

■ 基本原則

1. オープン/相互運用性

- データを流通させることで新たな価値を生み、多様な主体が参加することでイノベーションを創発するため、オープンであること、そして、相互運用性が高いことを原則とします。（オープンな議論の場、オープンデータ※⁶、オープンソース※⁷、標準API※⁸、GitHub※⁹等を活用したオープンな開発等を推奨）

2. 多様性/包摂性

- デジタル化を人に強いるのではなく、あらゆる人の社会活動や都市運営をサポートするツールとして活用していきます。デジタルで高齢者、障がい者、外国人、女性をはじめ、すべての人の社会参加を支え、多様で包摂的な社会を目指します。
- 先端技術やデータの活用の効果は、経済性や効率性だけでなく、課題解決への寄与など社会的なインパクトを大切にしていきます。

3. 透明性/プライバシー

- データの流通や活用には、信頼関係の構築が欠かせません。信頼関係の構築のため、透明性の確保や個人情報・プライバシーの保護に配慮して取り組んでいきます。
- 収集されたデータは、ダッシュボードやBIツール※¹⁰等を活用し、積極的に可視化していきます。また、データに基づく政策形成（EBPM）や合意形成などのまちづくりにも活用していきます。

4. 持続可能性

- 新たなサービスやソリューション、事業の立ち上げにあたっては、設計や実証実験の段階から、運用面、財政面において持続可能であることが重要であることを十分に認識し進めていきます。
- 財政的な負担においては、受益者を意識した設計を行うとともに、資金調達においては、既存の枠組みに捉われない持続可能な調達のあり方を検討していきます。

5. 安全・安心/強靱性

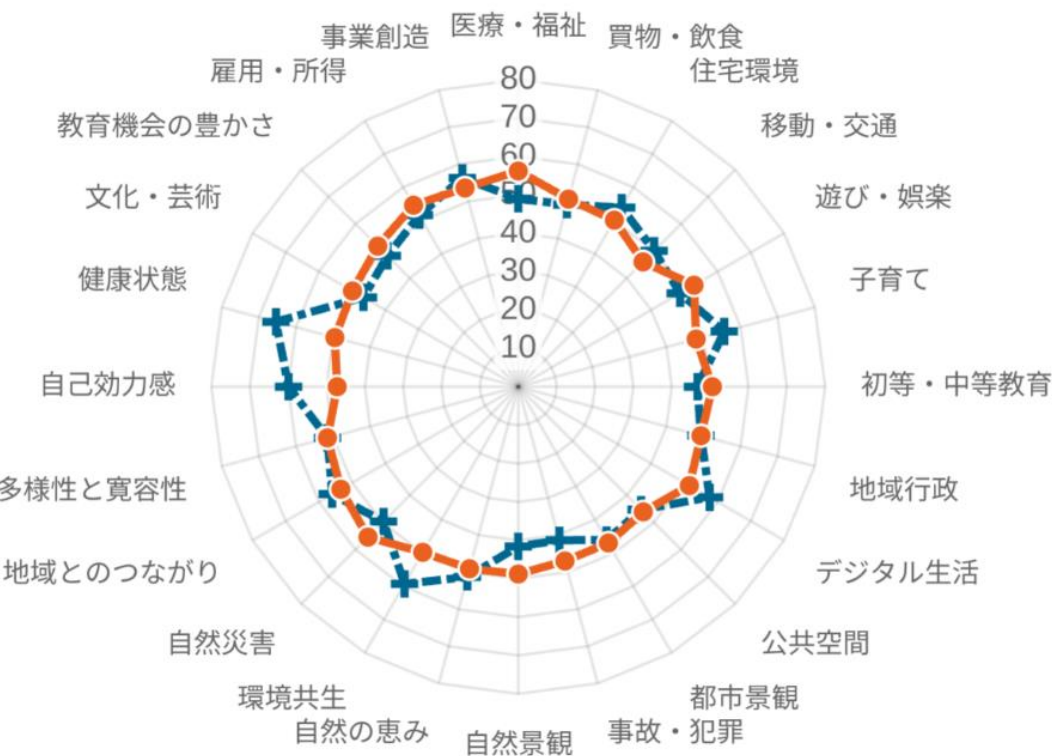
- 自然災害やパンデミック（世界的大流行）、サイバー脅威（コンピュータシステムに対する電子的攻撃など）、その他トラブルによる障害が生じても最少限の都市機能を維持し、早急に復旧できるよう配慮した、システムや体制の構築に努めます。

地域幸福度（Well-Being）指標と重点取組分野の関係

- 地域幸福度(Well-Being)指標とは、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を数値化・可視化する指標です。
- 地域における幸福度・生活満足度を計る4つの設問と、3つの因子群(生活環境、地域の人間関係、自分らしい生き方)から構成され、因子群は合計24のカテゴリーに細分化されます。

※参考：デジタル庁ホームページ <https://well-being.digital.go.jp/>

■ 浜松市全域の主観と客観データ



※出典：デジタル庁 2024年度版Well-Being全国調査

生活環境

因子	主観	客観	因子	主観	客観
医療・福祉	56.2	49.0	デジタル生活	51.5	57.6
買物・飲食	50.6	49.1	公共空間	46.1	45.3
住宅環境	50.1	53.9	都市景観	47.0	46.1
移動・交通	46.0	50.1	事故・犯罪	47.0	41.4
遊び・娯楽	52.9	48.7	自然景観	48.8	41.6
子育て	48.0	55.6	自然の恵み	49.1	51.3
初等・中等教育	50.6	46.7	環境共生	49.8	59.3
地域行政	49.3	49.3	自然災害	55.4	49.7

地域の人間関係

因子	主観	客観
地域とのつながり	53.4	56.0
多様性と寛容性	51.5	51.5

自分らしい生き方

因子	主観	客観
自己効力感	47.2	59.9
健康状態	49.5	65.4
文化・芸術	49.9	46.6
教育機会の豊かさ	51.8	48.2
雇用・所得	54.6	51.6
事業創造	53.6	56.3

地域幸福度（Well-Being）指標と重点取組分野の関係

■ 浜松市民のウェルビーイング因子のSWOT分析※11

	T（脅威）	O（機会）
S （強み）	（主観50以上、客観50未満） ・ 買い物・飲食 ・ 遊び・娯楽 ・ 初等・中等教育 ・ 自然災害 ・ 教育機会の豊かさ	（主観と客観の偏差値50以上） ・ 医療・福祉 ・ 住宅環境 ・ デジタル生活 ・ 地域とのつながり ・ 多様性と寛容性 ・ 雇用・所得 ・ 事業創造
W （弱み）	（主観と客観の偏差値50未満） ・ 地域行政 ・ 公共空間 ・ 都市景観 ・ 事故・犯罪 ・ 文化・芸術	（主観50未満、客観50以上） ・ 移動・交通 ・ 子育て ・ 自然景観 ・ 環境共生 ・ 自然の恵み ・ 健康状態 ・ 自己効力感

地域幸福度（Well-Being）指標と重点取組分野の関係

①人と人・心と心をデジタルで紡ぐ

Connected-City

多様性・包摂性	多様性と寛容性
	地域とのつながり
観光	多様性と寛容性
	デジタル生活

②あなたの挑戦がまちをアップグレード

Challenging-City

産業 (ものづくり・ 農林水産業)	事業創造
	雇用・所得
	教育機会の豊かさ
音楽文化・ エンターテインメント	文化・芸術
	遊び・娯楽
	事業創造

④ハード（強さ）とソフト（やさしさ） の共生で未来を守る

Resilient-City

災害レジリエンス※12	多様性と寛容性
カーボンニュートラル・ 脱炭素 ネイチャーポジティブ※13	自然の恵み
	環境共生
モビリティ	移動・交通
	医療・福祉

③データが導く暮らしやすさ

Liveable-City

ウエルネス・医療・福祉	医療・福祉
	健康状態
教育・子育て	初等・中等教育
	子育て
デジタル・ガバメント	デジタル生活
	地域行政



VI 用語の説明

※本構想で使用しているケースでの意味を説明しています。

※1	Well-Being	Well（よい）とbeing（状態）からなる言葉。心身の健康と幸福感を含む総合的な生活の質や充実度。個人や社会の繁栄と満足度を表す概念。
※2	都市の最適化	都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、効果的・効率的な都市計画、都市整備、都市管理・運営を実現すること。
※3	ソリューション	課題を解決することや、そのために提供されるシステム。
※4	アジャイル	柔軟で迅速な対応を重視するソフトウェア開発や組織運営の手法。変化に適応し、効率的に成果を出すアプローチ。
※5	スモールスタート	新たな事業やプロジェクトを立ち上げる際に、最初は機能やサービスを限定するなどして小規模に展開させること。
※6	オープンデータ	官民データのうち、誰もがインターネット等を通じて容易かつ無償で利用できるように公開されたデータのこと。
※7	オープンソース	ソフトウェアのソースコード（ソフトの内容）を公開して、改良や再配布を認めるという考え方。
※8	API	アプリケーション間でデータやサービスを共有するための仕様。ソフトウェア同士の通信を可能にする接続インターフェース。
※9	GitHub（ギットハブ）	他の開発者と一緒にソフトウェアの開発等を行うことができるプラットフォーム。
※10	ダッシュボード、BIツール	データを統合、分析、可視化するソフトウェアやツールのこと。
※11	SWOT分析	企業や事業の強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)を分析し、戦略立案に活用する経営手法。
※12	災害レジリエンス	災害による被害を最小限に抑え、迅速に回復する能力。社会や組織が持つ、危機に対する適応力と復元力を指す。
※13	ネイチャーポジティブ	生物多様性の保護や回復を目指し、経済活動と自然保護の両立を図る考え方。